



韮中だより 11月

令和6年11月26日発行

学校HP

4月18日に3年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査の結果が、公表されました。今年度は、国語、数学において、これまでの学習で身に付けた知識・技能と、知識・技能を活用する力についての学力調査と、生徒の学習や生活に関するアンケート調査が行われました。本校の表れとして顕著なものについて報告します。

1 本校生徒の学力分析と考察【全国・県の平均正答率の比較(%)】

教科	全体結果	観点別評価		観点別結果
国語	◎	知・技	言葉の特徴や使い方に関する事項	◎
			情報の使い方に関する事項	△
			我が国の言語文化に関する事項	◎
		思判表	話すこと・聞くこと	◎
			書くこと	◎
			読むこと	◎
数学	◎	数と式		◎
		図形		○
		関数		○
		データの活用		◎

◎全国、県の両方を上回った ○全国、県のどちらかと同じか上回った △全国・県ともに下回った

2 正答の多かった設問と努力を要する設問

【国語】

- 表現の技法について理解する。
- 目的に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする。
- 資料を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように話す。
- ▲意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。
- ▲話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる。
- ▲文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する。

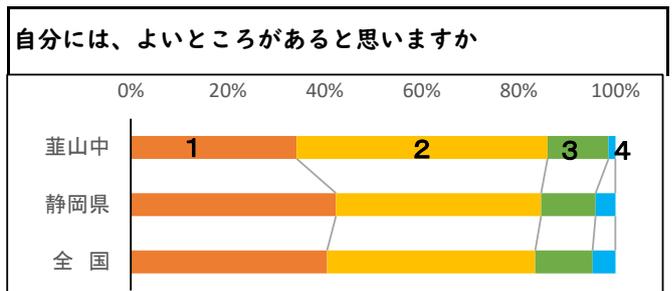
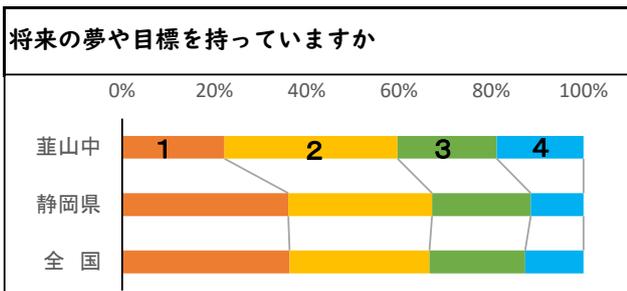
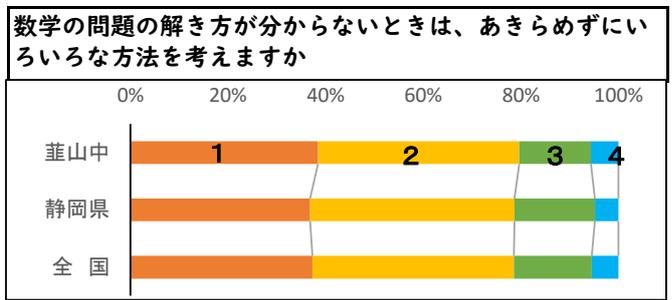
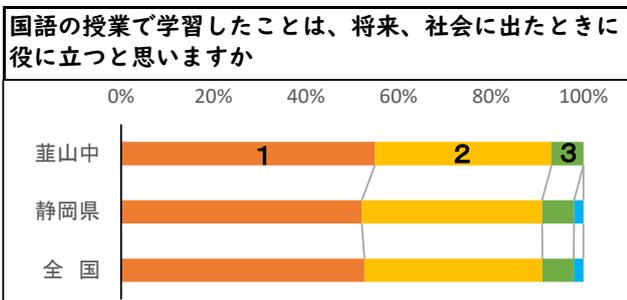
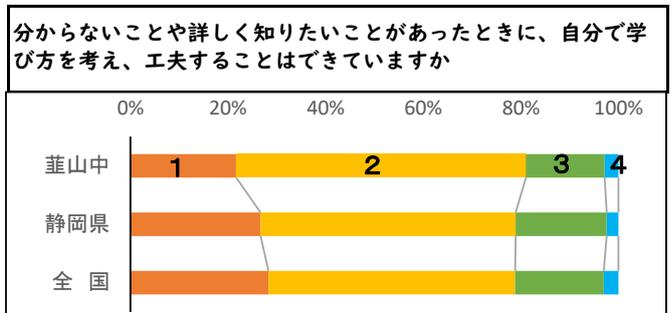
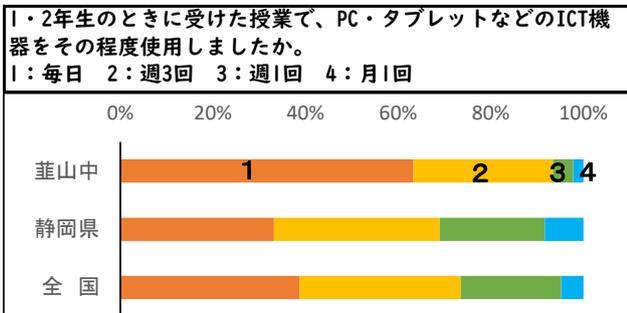
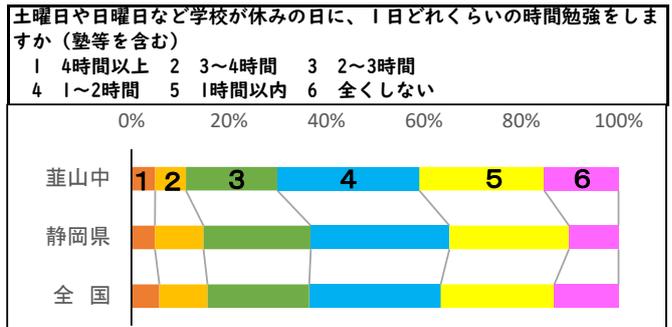
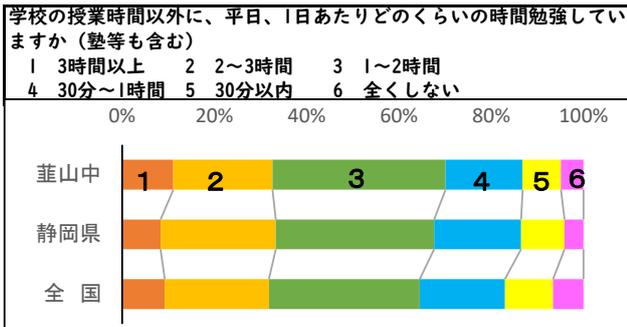
【数学】

- 簡単な場合において、確率を求めることができる。
- 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる。
- 二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができる。
- ▲複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
- ▲事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

3 質問紙回答より 【本校と全国・県の状況との比較】

※回答番号について

1…当てはまる 2…どちらかといえば当てはまる 3…どちらかといえば当てはまらない 4…当てはまらない



【アンケートの結果から】

○ICTに関する質問では、授業、家庭学習で活用していると回答した生徒が多い。また、それにより、「自分のペースで学習を進められる」「分からないことをすぐに調べられる」と感じる生徒が非常に多い。

→今後も活用を推進すると共に、今回の調査で評価の低かった「分からないこと、詳しく知りたいことを自分なりに工夫して学ぶ」ためのツールとしても効果を挙げられるよう、検討を進めます。

○各教科の学習において、学習の重要性を強く感じ、すぐには分からなくてもあきらめずに考えようとする粘り強い取り組みをしようとする生徒が多い。

→この良さをより伸ばし、学力向上につなげていけるよう、これまで以上に学習の意義を丁寧に説明することや、あきらめずに取り組む生徒への個別の支援などに力を入れていきます。

▲学校評価アンケート等でも話題になっている家庭学習に関する調査結果から、県や全国の平均と比較してやや学習時間が短い傾向が見られる。

→授業と家庭学習との連携を見通した授業づくりを進め、一人一人にとって必要な学習を充実させる支援に取り組みます。

▲「将来の夢や目標」「自分のよさ」をまだ見つけられていない生徒が多い。

→全ての教育活動を通して、自らの良さを感じ、将来に夢をもつきっかけとなる機会を意識的に設定します。